

氏名	押野 修司	部署	作業療法学科	職名	准教授
研究分野	発達障害、身体教育、動物介在療法				
学位	経済学士、修士（リハビリテーション）				
学歴	1987年明治大学政治経済学部経済学科、1991年専門学校社会医学技術学院作業療法学科、2003年筑波大学大学院教育研究科修士課程、2017年首都大学東京（現、東京都立大学）大学院人間健康科学研究科作業療法科学域博士後期課程単位取得退学				
経歴	1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	埼玉県作業療法士会（理事）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（理事）、動物介在教育・療法学会（理事）、日本作業療法士協会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本COG-TR学会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	イラストでわかる人間発達学（第1版第12刷）	共著	医歯薬出版；PP165-177		上杉雅之監修／浅野大喜・○押野修司・木原秀樹・倉本アフジャ亜美・島谷康司・浪本正晴・成瀬進・原義晴・樋室伸顕・森田正治・藪中良彦・山川友康・横井裕一郎・横山美佐子・吉田勇一著	2022.1
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	生活環境技術学		4	3年生必修。未来の作業療法を考え、自助具や事業の作業療法学生としてのアイデアをグループ学習させた。クラス内におけるプレゼンテーションを課題とした。中間発表会により進捗状況を把握し、最終発表会ではコンテスト形式で投票、学生相互評価を実施した。感染予防のため、中間発表会、最終発表会は遠隔で実施した。		
2	小児保健看護学（健康開発学科）		2	1-2年生選択。発達時期の子どもの障害とその対応について講義した。資料は動画教材、静止画を多く使用し、福祉用具についても提示した。感染予防のため、講義は遠隔で実施した。		
3	ヒューマンケア論		2	全学1年生必修。「ヒューマンケアの視点から考える作業療法とは：「発達障害領域」（主として就学前）」をテーマに臨床経験の具体例と、ヒューマンケアに対する考えを述べた。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	作業療法情報管理論	○	8	2年生必修。作業療法における記録、報告に関する講義と演習を実施した。同日に対面授業のため、感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。1コマを講義(40分)、演習(40分)に分け、講義では実際に使用されている書式を見せながら説明した。演習では模擬患者と作業療法士の模擬的な評価と治療場面の動画の観察記録を書かせ、毎回コメントを付けて返却した。
2	発達期作業療法学演習	○	15	3年生必修。小児の発達マイルストーンについて、作業遂行課題(遊び、食事、排泄、更衣、整容)、作業遂行要素(運動、感覚-知覚-認知、心理、社会機能)に分け、動画、静止画を多く使用した。感染予防のためzoomを用いた遠隔授業と対面授業を組み合わせ実施した。グループ発表と期末テストは遠隔で実施した。
3	生活環境技術学演習		3	3年生必修。iPad、Windows10のアクセシビリティ機能について、実機を用いて演習を行った。感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨床作業療法技能実習		4.5	2年生必修。2年次後期(春季休業期間)に配置されている臨地体験実習(身体機能)の3週間の準備のため、臨床場面で多く用いられるADL指導(更衣動作)の評価と治療について講義と演習を担当した。デモンストレーションでは患者役を行った。感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。
2	作業分析学実習		4.5	2年生必修。作業療法における活動分析の技術習得のため、道具使用の少なく完成度の高い和紙工芸「マルチホルダー」の作成と活動分析を課題とした。感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。
3	基礎作業学実習	○	15	3年生選択。手工芸を作業療法治療に応用することを念頭に、手工芸の実施経験を増やし、活動分析を課題とした。感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。
4	発達期作業療法学実習		8	3年生必修。子どもの発達状況の把握とさらなる発達を促進するための提案を行うことを目的に、教員が子ども、保護者へのかかわり方を例示し、学生にかかわり方を指導した。感染予防対策を徹底した上で、対面授業で実施した。
5	臨地実習Ⅱ(身体機能領域・精神機能領域)		1期2021.4.12-5.28 2期2021.6.7-7.23 3期2021.8.2-9.17	4年生必修。1期2名、2期2名、3期1名を担当した。1期の1名は5/11-5/14は遠隔対応を依頼した。中間訪問により、学生と指導者の実習状況を把握し、必要に応じて課題量の調節を依頼した。中間訪問は、実習病院の状況を把握し、訪問可能であれば対面、訪問不可の場合は、電話又はzoomの中間訪問とした。
6	IPW実習		2021.10.5-10.8	4年生必修。県立大学学生4名、埼玉医科大学1名のチームを担当した。Zoomにより遠隔実習とした。2020年との違いは、2020年が模擬事例であったが、2021年は実事例であった。
7	臨地体験実習(高齢期・発達期)		2022.2.21-3.12	3年生必修。発達期を志望する学生14名を担当した。コロナ対応1週間+1週間遠隔事例検討8名、すべて遠隔事例検討の学生6名であった。遠隔事例検討は4事例準備した。うち2事例は、小児作業療法を経験した卒業生1名が担当した。事例検討を深めるため、毎日Zoomにて事例に関する情報共有およびディスカッションを実施した。

(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2021.4-2022.2	主指導	9名 副指導 0名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	発達障害児に対する支援研修会	東京都豊島区立池袋第一小学校 特別支援教室	体育の授業における身体の使い方について	2021.7
2	発達障害児に対する支援研修会	東京都豊島区立池袋本町小学校 特別支援教室	不器用さのある児童の身体の使い方について	2021.9
3	感覚運動遊び支援実践研修 (発達支援サポーター育成研修・レベルアップ研修)	埼玉県発達障害総合支援センター	発達障害児のための感覚運動遊び支援実践研修①	2021.9
4	感覚運動遊び支援実践研修 (発達障害支援専門研修・マネージャー育成研修)	埼玉県発達障害総合支援センター	発達障害児のための感覚運動遊び支援実践研修①	2021.9
5	令和3年度厚生労働省指定第4回臨床実習指導者講習会 (埼玉県講習会) 世話人	一般社団法人埼玉県作業療法士会	令和3年度厚生労働省指定第4回臨床実習指導者講習会 (埼玉県講習会) 1Group ファシリテータ	2021.11
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	一般社団法人 日本作業療法士協会	事例報告登録制度 一般事例A審査員		2021.9~2022.8
2	一般社団法人 日本作業療法士協会	日本作業療法学会 演題審査委員		2021.1~2023.12
3	一般社団法人 日本作業療法士協会	学術誌「作業療法」編集委員会 第一査読者		2021.4~2023.3
4	一般社団法人 埼玉県作業療法士会	理事、学術部長		2021.6~2023.5
5	一般社団法人 埼玉県作業療法士会	学術誌「埼玉作業療法研究」編集委員		2021.4~2022.3
6	日本リハビリテーション連携科学学会	学術誌「リハビリテーション連携科学」査読委員		2020.6~2022.6
7	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会	理事		2021.1~2022.12
8	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会	学術誌編集委員		2021.1~2022.12
9	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会	理事、会計委員長		2022.4~2024.3
10	埼玉コグトレ研究会	アドバイザー		2021.4~2022.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	卒業研究発表会 (計画発表、最終発表) 運営		2021.4~2022.3
2	学生支援	学年担任 (1年次)		2021.4~2022.3
3	学生支援	学生担任 (4年次)		2021.4~2022.3
6. 受賞 (研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			

7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			